

## リンパ球採取についての説明

### 1. ドナーリンパ球輸注 (DLI) とは

造血幹細胞移植は、通常の治療では治ることが困難な造血器悪性疾患に対して、大量の抗癌剤や放射線照射により体内にある悪性細胞と造血細胞を根絶し、その後、ドナーの方から正常の造血幹細胞を移植することにより骨髄の再構築をはかり、血液を造れるようにする治療法です。しかし、約 30% の患者さんで病気が再発します。再発した患者さんにドナーの方のリンパ球を輸血すると再発した悪性細胞がやつけられ、治る場合があります。

### 2. リンパ球採取

#### 1) 採取方法について

日赤で行われている成分献血とほとんど同じで、成分採血装置を用いて行います。採取する時は、2本の静脈（採取用と返血用）に少し太い針を刺して行います（静脈が細い方は、鼠径部の静脈にカテーテルを挿入させていただくかも知れません）。成分分離装置でリンパ球を集め、その他の血液はドナーの方に戻されます。のべ3リットルぐらいの血液を処理し、200ml のリンパ球をいただきます。時間は1時間ぐらいです。入院は不要です。



#### 2) 成分採血に伴う危険性について

成分採取時には、血液が固まらないようにクエン酸を使用しますので、その副作用として一時的に手足のしびれや倦怠感が生じる場合があります。この場合カルシウムを点滴することで軽快する方もあります。極めてまれですが、血管迷走神経反射で心臓が止まった方も報告されています（すぐに蘇生され、特に後遺症等はないようです）。そのために、採取中は心電図モニターを付けさせていただきます。リンパ球採取時には、血小板も採取されますので、連続した複数回の採取で血小板が下がる場合があります。また、針を抜いた後、止血が不十分な場合は内出血をすることもありますので、しっかり押さえてください。

### 3. ドナーリンパ球輸注 (DLI) の有効性

ドナーリンパ球輸注を受けた患者さんがすべて治るわけではありません、効果がない場合や一時的に効果が見られたとしても再発する場合があります。また、移植片対宿主病

(GVHD) が悪化して亡くなってしまう可能性もあります。

#### 4. セカンドオピニオンについて

御自身が選択に迷われているのであれば、多くの情報を得て判断されることが重要です。そのために他の専門医にセカンドオピニオンを受けることが可能です。セカンドオピニオンを希望される場合は、紹介状を用意しますので主治医にお知らせ下さい。

#### 5. 断ることの自由

ドナーになることはご自身の病気の治療のためではありませんので、断ることはあなたの自由です。主治医は別の治療法の可能性を考えます。また、いまドナーになると決めても、いつでも断ることができます。

#### 6. 質問の自由

どんなことでも主治医、看護師、薬剤師などに質問することは自由です。

#### 7. 治療成績の報告

同種造血幹細胞移植の成績は匿名化（誰かを特定できないように）した上で日本造血細胞移植学会に報告され、今回お示ししたような統計データとなり、今後の治療選択の参考資料となります。あなたのプライバシーは完全に保護されます。

大阪市立大学 血液内科（平成 19 年 1 月 1 日改訂）

外来 06-6645-3391、病棟 06-6645-3070